

同じく、沙漠なきに非ざるも、各沙島間は近く相望み、又大戈壁を間すること無し。随て風害の憂なく、細流多く、牲口の渴を醫するに足るもの有り。是れ即ち夜行を棄て晝行を爲したる所以なり。

關展城

銀子線紅家盧大墩三十里大墩パチャン（纏頭）を経て行程約十二里、關展城に入る。

漢人と纏頭の教育

此地人家漢人六十餘戸、湖南湖北の人多く、陝西人之に亞き、回民七十戸、纏頭六百戸、而して漢人は概ね商、纏頭は農三分の二、餘は商を營み、學校は皆無とす、唯漢人の富者は、其の子弟の爲めに書房を設け、師を聘して四書五經を教ゆるも、回民に在りては更に此事なく、纏頭は小兒五六歳に至れば、哥蘭經を暗誦せしむる一事あるのみ。

地形

地形は、北に遠く天山を望み、南は沙丘相重なり、東は平坦なる沙地に屬し、西に一
大沙丘横りて、一盆地を形成するも、其の中央部は臺地を成し、城は即ち該臺上に築
かる。天山麓より流れ來る小川は此の臺地の爲め分流して、東西の門外を南に通
じ、南沙丘と西沙丘との間を縫ひ、遙に沙漠中に没す。其の沿岸楊柳多く、且つ一萬
五千有餘畝の耕地を有し、一畝地毎年穀類を收穫する五六斗、地價三乃至四兩なり